

令和7年度 第1回高知市広聴広報推進委員会 議事概要

○開催日時：令和7年9月10日（水）18：00～20：00

○場 所：本庁舎4階422会議室

○出席者：玉里委員長、松本副委員長、末村委員、尾崎委員、畠中委員、小林委員、市野委員

事務局（川添課長、高橋補佐、松原係長、川久保、田中、柳澤、筒井）

○会次第

1 開会

2 議事

（1）広聴広報戦略プランの取組報告

（2）高知市公式ホームページのリニューアル

（3）高知市PR大使

3 閉会

○項目ごとの意見等概要

（1）広聴広報戦略プランの取組報告

（広聴戦略）

■出前講座

【委員】

事業開始から9年が経過したが、少し飽きられてきたとか、新しいニーズが出てきたとか、改善が必要なのではないかという気づきはあるか。

【事務局】

各職員のスキルも上がっており、特に防災関連の講座などはテーマ外の要望にも対応できるようになってきている。

改善点としては、申し込みが少ない講座も多くあるので、そこは少し関係課とも相談しながら新しい講座にブラッシュアップをしていけばよりいろいろな分野の情報発信にも役立つのではないかな。

【委員】

申込団体はリピーターが多いのか。

【事務局】

町内会や学校などはリピーターが多くを占めているが、最近では災害時の避難誘導に備

えてビルの入居者や企業が防災関連の講座を申し込まれる傾向がある。

【委員】

全般には年々増加傾向であるが、「市政・まちづくりなど」の分類は減少している。

【事務局】

この分野では移住や公共施設、高知の歴史など、生活に直結するものではなく大きいテーマを扱っているものが多くあり、主な申し込み団体である地域の団体ではニーズが少ないのではないかと分析している。

【委員】

デジタルに対応できていない高齢の方々に非常に重宝されている印象であるが、学生などの若年層にも幅広く訴求していきたいという思いはあるか。

【事務局】

出前講座そのものは高齢者のみでなく、市内に在住または在勤・在学している方を対象とした事業であり、子ども向けの分野も存在しているが、若年層には積極的なPRができていないので検討していきたい。

【委員】

原則平日開催がネックで、若者や社会人の方が参加しづらいのであれば、例えば人気の講座をWebでアーカイブとして動画公開すれば二次的に活用できるので有効ではないか。

【事務局】

高知市公式YouTubeでいうと、再生回数ではやはり観光プロモーション動画などが上位にくるが、例えば「いきいき百歳体操」の動画は各地域で同体操を行う際に活用されており再生回数も伸びているので、ご意見を参考にさせていただく。

■広報「あかるいまち」の充実（紙面アンケート）

【委員】

アンケートの結果を見ると、取り上げてほしい企画や内容として「レシピ」という声も多い。掲載することで自炊する若者にも広報紙を見ていただけるのではないか。

■その他

【委員】

今はSNSでの発信というのがすごく大事だなと思っており、例えば市税の申請の仕方

が高知市公式Y o u T u b e 動画で配信されている。文章での発信だけでは細部がわからないので、こういった取組も重要ではないか。

(広報戦略)

■L I N E 公式アカウントの運用

【委員】

運用を開始して4年目となるが、市への問い合わせが減った等、何か実際に感じられたか。

【事務局】

ゴミ収集の配信は好評いただいている。その他にも通報機能を使った道路等の不具合の件数も増えているので、こういった分野では問い合わせは減っているのではないかと思います。

【委員】

登録者数は毎年約3,000人増えているが、通報機能の件数は変わっていないが。

【事務局】

機能の周知を進めていく。

■デジタル化の推進

【委員】

市民のデジタルリテラシー向上は必要であるので、「スマホでL I N E 教室」以外にも生活に活用できるデジタルの活用、例えば高知市公式Y o u T u b e を紹介する講座などのメニューを増やすことで、よりデジタルを活用してほしい世代へのアプローチを検討してはどうか。

【事務局】

市としてもL I N E の使い方だけではなく、市民のデジタルリテラシーの向上になるメニューを増やしていきたいと考えており、今後検討していく。

■その他

【委員】

SNSには、I n s t a g r a m やL I N E、Y o u T u b e など様々あり、利用する年齢層も異なる。先ほど意見のあったレシピの話題等を若い方に届けたいのであれば、若年層は特にI n s t a g r a m を使われているので、『作ってみてね』などのハッシュタグをつけて拡散してもらうなどどうか。

【委員】

すでに運用しているSNSは順調に伸びてきているようなので、さらにその先を目指す段階にきていると考える。

(組織戦略)

■広聴研修の実施・広聴広報活動支援

【委員】

研修の成果はでているか。

【事務局】

例えばチラシを作って欲しいという依頼があった際、以前はゼロベースでの相談が多かったが、研修の内容を活かして原案をある程度仕上げて相談に来る部署も増えてきた。

【委員】

庁内で広報物のコンテストなど実施すればさらにスキルも上がっていくのではないか。

(2) 高知市公式ホームページのページリニューアル

【委員】

操作性や視認性は非常に重要なので、運用開始前に実際に市民の方に操作テストをしていただいて意見を聞くことはできないか。

【事務局】

市民を対象とした操作テストはスケジュール上難しいが、導入を予定している生成型AIチャットボットを使ったアンケートで操作性などの意見を聞くことは考えている。

視認性については、高齢者や障がい者などにも配慮した各種アクセシビリティガイドラインを準拠した仕様とする。

【委員】

現行ホームページの情報はすべて移行されるのか。

【事務局】

すべて移行する。なお、現行のホームページでは情報量が多くなりスクロールが長くなっているため、大・中・小分類は情報を再整理することで市民が見やすい、情報を探しやすいホームページとしていく。

【委員】

他の部署の分かりづらい記事をリライトするといったことは行うか。

【事務局】

データ移行作業の際に配慮していくとともに、新しいホームページの運用開始後は毎年度、操作研修会を行うこととしているので、その中で記事のリライトや整理の改善提案を行っていく。

（３）高知市PR大使

【委員】

GR e 4 N BOY Z（グリーンボーイズ）は顔を非公表で活動されているが、大使としてどのような活用を想定しているか。

【事務局】

高知市PR大使の委嘱と併せて、高知市PRソングを制作していただいている。別途実施する本市シティプロモーション事業においては、この曲を使った高知市PR動画を制作するので、まずはこの素材を活用した展開を考えている。

【委員】

GR e 4 N BOY Zは以前にもよさこい祭り総踊り曲「この地へ～」を制作されている。この楽曲は毎年よさこい祭り後夜祭で使用されることにより定着していき、昨日の大阪・関西万博でも披露されていた。高知市PRソングもこういったところで活用されていくのか、定着していく上では重要ではないか。

【事務局】

高知PRソング制作にあたっては、市民等を対象に高知市の思い出の場所やエピソード、未来への想いなどのメッセージを募集し 466 名からの応募があった。集まったメッセージはGR e 4 N BOY Zに提供し、現在、楽曲制作が進んでおり 10 月頃に完成予定である。

メッセージの応募は年代別の割合でいうと 10 代 20 代が約半数を占めており、やはり若者を中心に広げていきたいと考えているので、成人式や卒業シーズンを想定しながら活用策を検討していきたい。

以 上